

# 1 戦後の再建に活躍した人たちと進駐軍の援助

昭和20年8月15日、第2次世界大戦の終結を境に、わが国の政治・経済・社会は、連合軍総司令部（G・H・Q）の指令に従いながら大きく転向して行ったが、教育もまた例外ではなかった。

昭和20年10月、いわゆる“教育の民主化”の一つである「日本教育制度に対する管理政策」が出され、修身・日本歴史・および地理の授業停止にあい、古い教科書の回収が行われ、間に合わせのザラ紙ガリ版刷りのばらばら教科書が使われるなど学校教育の受けた改革も大きかったが、社会教育についても、

## 青少年団体

学徒隊ノ解散ニ伴ヒ青少年ノ共励組織ヲ欠クニ到ツタノデ、新ニ青少年団体ヲ育成スルコトニシタ。新青少年団体ハ従来ノ如キ強権ニ依ル中央ノ統制ニ基ク団体タラシメズ原則トシテ郷土ヲ中心トスル青少年ノ自発能動、共励切蹉<sup>ヒツカ</sup>ノ団体タラシムルモノデアツテ、サキニ学徒隊ノ結成ニ伴ヒ解散セル大日本青少年団ノ如キモノヲ復活スルノデハナイ

という基本方針がうたわれている。これを受けた文部省は「青少年団体設置並ニ育成ニ関スル件」という次官通達を都道府県に出したのであるが、混乱した思想の中では容易に定まりようもなく、少年団体より早くつくられた地域青年団では、くだらぬまげもの芝居に明け暮れするありさまであった。

こうした中であって中央では早くも終戦の翌21年の2月9日、三島通陽、本庄俊輔ら十数人が、東京銀座の交詢社ビルのストーブもない寒い部屋に集って、ボーイスカウトクラブをつくり、第1回の研究会を開き、引き続き毎月、例会を開いて新しいあり方についての研究にとり組んでいる。そして各県各地においても、中央とは関係なく、ボーイスカウト運動は活発に動き始めていた。

## イ、岩田友介の活動

大分県において終戦後最初にボーイスカウト運動に手をつけたのは、別府の岩田友介であった。

彼は昭和22年新制中学校ができた時、教員の大異動で大分市碩田中学校に転勤しているが、それまでは別府市南小学校の教員であり、南小学校は北小学校と共に別

府市では戦前から少年団運動の盛んな所であったので、彼も少年団指導者の一人であった。

その日の食物にもこと欠く昭和21年の7月15日、別府市ボーイスカウト運動の母体となった「別府青年健児隊」を結成し、初会合を開いている。その時集ったのは、岩田友介、関谷守、小手川政敏、亀山今朝吉、津田博司の5人であった。そして翌22年7月20日には、大分軍政本部教育部長代理デニス女史、県知事代理立川教育部長、協別府市長らを来賓に迎えて、別府ボーイスカウト隊の結成式を挙げている。この時のスカウトは12名であった。このことについて後に指導者クラブの会長になった大野郡の麻生重則は次のように当時を語っている。

「たしか昭和22年の冬だったと思うが、偶然のことで別府市在住の岩田友介氏と知りあった。氏は既にボーイズを集めて訓練を開始していると聞き、我が意を得たりと快哉を叫んだ。私も隊を結成し、『訓練が少し進んだら別府に出かけ、交歓をやりましょう。』と約束したのを覚えている。」と。

岩田友介のボーイスカウト運動によせる情熱は相当なもので、福岡県連あたりにも知られており、21年の暮れ福岡県でボーイスカウトの再建準備会が開かれた時、助言と協力を依頼されて福岡市に行った。そしてその時、早く大分県にも連盟を組織しなければならないと思ったという。

昭和22年9月1日、大分市荷揚町小学校で、大分市全体の大分ボーイスカウト連盟結成式が行われた時、彼が一丸忠三郎に団長を、堤力に副団長を任命したというから、別府、大分を中心に彼がリーダーシップをとっていたことがうかがえる。

昭和23年3月14日、大分県ボーイスカウトクラブが結成された時、彼は進んで世話役を引きうけ別府市高砂町の自宅に事務所を置いている。

しかし残念なことには、彼は病を得て、県連盟の結成、24年6月12日を見とけはしたけれど、その年の12月23日、不帰の客となって県のボーイスカウト界から名を消している。(42歳くらいとか)

彼が生前の23年5月9日の大分合同新聞に、「ボーイスカウト」なる一文を文化欄に掲載しているが、実に明確にその理論と精神を把握していたことがわかる。

「子供の生活を時間的に考察してみると、家庭に居る時間は就寝時間を除いて約3時間に過ぎない。運動場の片隅とか、放課後学校の行き帰りとか、街で遊んでいる時間など子供が自由に放任されている時間は約6時間である。この時間は子供が社会生活を営んでいる時間であり、先生の日も父兄の日も全然屈かない時間

である。」

とまず、この約6時間に学校教育、家庭教育が破壊されて行くことを指摘し、この時間の善用をボーイスカウト運動で、と呼びかけている。

「ボーイスカウトの教育方法は教えつめこむものではなく、彼ら自身に潜在する能力を抜き出し、伸ばすもので、自発活動を促すことに重点を置いている。そのために各種の教程を進級制度により、子供たちの興味と希望の連続のもとに精進させ…(中略)体験主義であるボーイスカウト教育は野外生活を尊重し、ハイキングやキャンプによって効果をあげる。この教育の教場が主として野外であり、教材には自然現象に重きを置き、協同生活の方法、相互扶助精神を学ばせ、人格修養公民教育を行うのであって、単なる遊びとしてのまたは単なる体位向上としてのハイキング、キャンプではないのである。……以下略」(筆者は別府ボーイスカウト隊長・県地方児童福祉委員)

#### ロ、このころ活躍した他の人々

岩田友介のほかこのころ再建に活躍した人たちには、古井六彦・麻生重則・木元道治・八坂直行・渡辺善證・渡辺達雄・堤力、等がいる。古井六彦や滝口弘士がなぜ戦後再建の先頭に立たなかったかという、2人共進駐軍から公職追放されていたからであった。この2人は何がその該当事項であるのかをただすため、学校の引ける毎週土曜ごとに、大分市外堀にあった当時の軍政部(のち公民館、いま教育会館)に押しかけ、時には門前払いを食いながらも、ねばって半年くらい後に追放解除を勝ちとったという。

○麻生重則は大野郡上井田村(現朝地町)の出身であり、前記岩田友介と会ってからその時交わした約束を果たすべく、23年の春、村の小学生5・6年生と、新制中学生26名を、両校の校長に推せんしてもらって隊をつくり、4班に分けて訓練を開始し、その年の秋には約束どおり別府に隊をつれて行き、野口小学校で楽しい交歓会をしたという。

昭和23年10月4日より15日にいたる12日間という長い青少年指導者講習会が東京小金井の浴恩館において開かれ、麻生はこの会に出席した。これは、文部省とC I E(民間情報教育局)との共催で、わざわざアメリカから4人の講師を招き、民間青少年団体の中央指導者養成のため開いたもので、地方各県からの参加者は10数人であ

ったという。この講習会の成果を基礎に翌年からは社会教育団体ばかりでなく、教育長、指導主事等も加え、東大ほか各地の大学等で講習を開始した。(Institute For Educatinal Leadership=IFEL)いわゆるアイフェルと言われたもので、権威のある講習であった。

なおこの講習会には当時まだ師範学校5年生であった藤島檜義(県連史編集委員)も、ボーイスカウトを母体として推せんを受けて参加しており、彼が書いた報告書が県の社会教育課より「青少年指導の手引」として出されたという。なお彼は古井六彦や、県の主事利光諒一らにすすめられてボーイスカウト運動にとり組んだのであり、鶴崎小学校を中心に隊をつくり、23年2月には早くも仮登録を終わっており、鶴崎市における若い指導者となった。

○堤力(県議会議員・県連理事)は当時荷揚町小学校にあって生徒指導に情熱を傾けており、児童生徒の校外生活に最適なボーイスカウト運動に目をつけて隊を組織し、大分市竹町の丸忠三郎らと共に大分市ボーイスカウト運動の中心的存在となった。

昭和22年9月21日付の大分合同新聞は、20日に行われた大分ボーイスカウト結成のもようを次のように伝えている。

#### 大分ボーイスカウト結成

20日午後1時、大分市荷揚町小学校講堂で、市内初中生を中心とする170名の団員が集り、結成式を挙行、団員の名替にかけて唱える3箇条の誓いの後、岩田隊長より、団長丸忠三郎、副団長堤力外役員が任命され、立川県教育民生部長が激励のことばをおくった。この団は第1隊から7隊まで7個隊で組織され、これからテンダーフード(見習スカウト)の3カ月訓練に入る。

堤力はその後教職員組合の活動に向い、自然ボーイスカウトから去って行ったが、現在なお県連盟理事として活躍中である。

○渡辺善證はそのころ大分市役所の学務課に勤務していた。彼は戦前久留島武彦の講演を聞いたことがあり、その時ボーイスカウトの魅力に引かれたという。戦後別府市公民館でボーイスカウトの講習会があり、これを受けて、講師であった古井六彦の温和な人がらに引かれ、やる気を起こし、大分市春日町小学校、八幡小学校の子供18名を集めて隊を結成し、仮登録した時には、日本で22番目であったという。

昭和23年6月、岩田友介から指導者クラブの事務所を引き継いで大分に移し、そ

の後別府の波多野裕敏が事務局を引き受ける昭和25年1月1日まで、県連盟結成前後の多忙な時期を世話役として働いている。

県ボーイスカウト指導者クラブ結成から、県連盟の結成にいたる1年間は、1カ月の間に2度3度と会合が開かれることもあり、また結成の前後は週に2度くらい進駐軍民生部に呼び出され、いろいろと聞かれたり、報告を求められたりしたという。公務員でありながらこのような運動ができたのは、彼が社会教育の係りであったということもあるが、課長春山庫喜(後の大分市教育長、県連盟理事長)の絶大な理解と協力によるものであった。

#### ハ、進駐軍の援助

アメリカは世界最多のスカウト人口を持つ国であり、(公称400万名)ボーイスカウト運動には国を挙げて理解と協力のあるお国がらだということは、多くの人々に知られており、戦後日本の再建についても、無条件に協力援助があったものと思われがちであるが、事実は必ずしもそうではなかった。

当初G・H・Q(連合軍総司令部)は、日本のボーイスカウト運動の中に残る軍国主義的なものを心配して、再建運動を許可しなかった。中央においては竹下勇(日本少年団聯盟第3代総長)は、終戦直後、進駐軍の中の2世でボーイスカウト出身の村山有や、鳴海重和らに働きかけ、G・H・Q当局の再建承認を得ようとつとめた。やがて前記三島通陽らのボーイスカウトクラブ等の働きかけや、虚脱状態にある社会に放置された青少年を何とかしなければ、という各地同志の熱意が、ついにG・H・Q当局を動かした。「戦争前の日本聯盟の系統に属する純粋なボーイスカウト運動の再建なら差しつかえない。」という承認を得たのは、昭和21年12月4日のことであった。

こうして再建が承認されるや、再建のための準備があわただしく行われ、事務局が設けられ、中央組織がつくられた。この時の臨時地方理事に本県の古井六彦が選ばれている。

さて、大分県の場合、やはり最も心配されたのは進駐軍の意向であった。学校教育においては地理や日本歴史、修身の本も没収という、うきめをみているので、ボーイスカウトが、ベーデン・パウエル of 創始になるものとはいえ、戦時中は戦争協力団体であったことはまちがいない、一体進駐軍が心よく許すだろうか、という不

安はだれにもあった。

麻生重則は、昭和23年3月、大分県ボーイスカウト指導者クラブ結成で会長を引き受けた直後、古井六彦を尋ね、岩田友介と3人連れだって、外堀の軍政部に直接その意向を聞いただしに行った。公民教育課長マックニリー博士は快く面接してくれ、次のように答えたという。

1. 戦争前の少年団日本聯盟のボーイスカウト運動ならやりなさい。
2. 今年の夏、海水浴をかねてキャンプをするなら、その指導および野営用のテントその他は軍政部で貸しましょう。

ということで3人は小おどりして喜んだ。第1の承認は既に中央G・H・Qから通達されていたのであろうから、当然としても、第2の援助は予想もしないところであった。

そしてこの約束はその夏7月25日より28日まで1回目、100名、28日より30日まで2回目、100名と坂ノ市日吉原海岸で第1回大分県合同野営訓練大会となって実を結んだ。マックニリーが自分もキャンプして指導にあたったことも約束どおりであった。

以来行われた野営行事や講習会等に、物資不足のボーイスカウトにとって、進駐軍の援助は何にも勝る励ましとなった。

昭和23年5月18日、軍政部主催の“ボーイスカウトのための映画会”が、午後4時から大分市厚生会館で行われ、スカウト・指導者はもとより、一般青少年、父兄ら800名が見学、「みんなの学校」「野球をしよう」「米国のボーイスカウト」の3本が上映され、見た人、特に指導者に多大の感銘を与えたという。同夜7時からは同じ映画が別府市の南小学校で上映されている。

24年6月12日には待望の県連盟の結成式を挙げたのであるが(後述)その時来賓として招かれていた別府G Iのソロモンは、ニューヨークのボーイスカウトの隊長であった人だけに、この道に対する理解と協力は非常なもので、日本のボーイスカウトに贈るため私費を投じてアメリカ本国に制服50着分とボーイスカウト関係書籍多数、その他を注文してあることを発表している。

現別府5団のボーイ隊長福山和緑が、終戦の混乱の中で、別府光の園の子供たちとボーイスカウト活動を始めた時、略帽は米軍のおさがりをもらった、と書いているが(スカウトおおい16号)、このころのことである。

## 2 指導者クラブの結成

### イ、しばしば持たれた会合

昭和32年3月1日付の大分連盟公報「かがり火」第34号には、県連沿革史として、昭和22年から32年2月までの主な県連の動きが掲載されており、この度の県連史編纂についても、大へん貴重な資料となったのであるが、これによると、ボーイスカウト再建のための最初の会合が持たれたのは、昭和23年3月14日、「ボーイスカウト大分県連盟結成準備会、大分県ボーイスカウト指導者クラブ結成、事務所別府市高砂町岩田友介方」とあるのだが、滝口弘士の履歴書によると、昭和22年3月29日「大分県ボーイスカウト運動復活準備会」とあり、呼びかけた範囲や会議の内容等によって集った人たちの受け取り方もちがひ、いつが最初の会合であったかは明らかでない。終戦が20年8月15日、21年にはいると既に前記岩田友介らの個人的な活動が始まり、22年になると、同志の集まりや話し合いが幾度か持たれ、23年の3月14日にとにかく指導者クラブを発足させた、ということであろう。

月を越して4月25日、大分市荷揚町小学校で正式に指導者クラブの創立総会を挙げている。集ったのは30余名という多数で、規約や年間行事をきめ、役員を選出しているが、その役員の名簿は、

BS 大分県臨時地方理事	古 井 六 彦
会 長	麻 生 重 則
副 会 長	岩 田 友 介
庶 務 部 長	木 元 道 治
同 部 長 代 理	八 坂 直 行
右 同	渡 辺 達 雄
教 育 部 長	堤 力
同 部 長 代 理	渡 辺 善 證
渉 外 部 長	麻 生 重 則
同 部 長 代 理	堤 力

なお当時の会員は次のとおりである。

大分県ボーイスカウト指導者倶楽部会員名簿（昭和23.4.25現在）

(氏名)	(職業)	(住所)
〔大分地区〕		
一丸 忠三郎	会社重役	大分市竹町3丁目
堤 力	教 員	大分市荷揚町小学校
内田 文雄	”	大分市城東中学校
渡辺 善證	公 吏	大分市東八幡 2
渡辺 正輝		同 上
小川 満智男	公 吏	大分市東八幡 1
安部 豊	”	大分市白木
藤島 檜義	学 生	大分郡鶴崎町字森
三宅 崇夫	”	” ” 字宮崎
三宅 規夫	”	” ” ”
大内 秀磨	”	” ” 森
山村 英明	”	” ” ”
土谷 哲夫	”	” ” 鶴崎
幸 政則	”	” ” 森
原田 涉	”	” ” 三佐
〔別府地区〕		
岩田 友介	教 員	別府市高砂町
渡辺 達雄	商 業	” 南区立田町
八坂 道行	工 業	” 西蓮田区
木元 道治	公 吏	” 中浜通9
宇田 泰輔		” 中浜区
能野 泰行	写 真	” 南区
小手川 正敏	商 業	” 富士見区
姫野 一夫	公 吏	” 御幸通2
佐藤 睦男	教 員	速見郡由布院町岳本
有田 重夫	”	” 日出小学校
〔国東地区〕		
伊藤 正一	教 員	速見郡杵築町本町



麻生 武五郎	教 員	速見郡杵築小学校
小野 浩	〃	〃 〃
了戒 武也	〃	〃 〃
加藤 慶一郎	〃	〃 〃 弓町
小森 一男	商 業	〃 〃 谷町
滝口 弘士	教 員	東国東郡朝日小学校
清地 正清	公 吏	〃 国東町
丸小野 清	商 業	東国東郡国東町

〔日田地区〕

小野 喜代司	公 吏	日田市小湊町2丁目
新田 元周	僧 侶	〃 川原町
畑 英次郎	公 吏	〃 中条通
石松 不二人	〃	〃 玉川町
中川 健	商 業	〃 川原町
島 昭三郎	会 社 員	〃 〃
山崎 勇	教 員	玖珠郡野上小学校

〔大野地区〕

麻生 重則	会 社 員	大野郡上井田村
広瀬 照晃	教 員	〃 牧口小学校

〔佐伯地区〕

諏訪 房義	教 員	大野郡重岡小学校
-------	-----	----------

〔臼杵地区〕

並柳 重信	教 員	北海部郡臼杵東中学校
幸 栄		〃 臼杵小学校

#### ロ、指導者養成と当時の各隊

こうした中であっても、指導者の養成は急務であったので、いち早く指導者養成講習会が開かれている。22年3月には第1回の講習会が坂ノ市海洋会館で、講師は日連本部から派遣された関忠志、第2回目は23年の5月、別府市浜脇の大連館で、主任講師は同じく日連の尾崎忠次であった。

尾崎忠次は翌6月、鹿児島であった講習会の講師を務めた帰りの12日、事務局を

訪問し、その機会に別府、大分、鶴崎の指導者14名が集り、尾崎を囲んで座談会を催し、これからのボーイスカウト運動のあり方や、日本連盟の方針などを話しあった。

なお日田市においても23年4月、日田市ボーイスカウトと日田市共催の指導者講習会が、同市淡窓図書館で開かれ、講師は古井六彦と大分軍政部のスタウトが受け持ち、30名が受講している。

当時県下に結成されていた各隊の、日連に仮加盟隊として届け出ていたものは次のとおりであった。(日連公報第3号、28年2月10日現在)

(代表者)	(所在地)
一 丸 忠三郎	大分市南新地420
木 元 道 治	別府市中浜通9丁目
藤 島 檜 義	大分郡鶴崎町字森675
小 野 喜代司	日田市小淵2丁目
堤 力	大分市大字津留906
滝 口 弘 士	東国東郡旭日村綱井2980
佐 藤 睦 男	速見郡湯布院町岳本1582
八 坂 直 行	別府市西蓮田
麻 生 重 則	大野郡上井田村平井
小 森 一 男	速見郡杵築町谷町

(公報2号、22年10月15日の仮登録隊として次の2隊がある。)

岩 田 友 介	別府市高砂町
丸小野 清	東国東郡国東町鶴川619

以上で見ると12隊であるが、ボーイスカウト日本連盟大分県理事、古井六彦名で関係者に出したガリ版ずりの、県ボーイスカウト指導者クラブ創立総会案内文によると、目下県には仮登録隊が16隊で、日本中で第2位ぐらいとあり、ここに掲げた数とは合わない。このことはずっと後、現在までつきまとう矛盾?であるが、結成したと聞けばあそこにも隊ができたと思うのは人情だが、登録しなければ、日連には何の記録も残らないわけで、その辺の差がここにも現れて来たものと思われる。なおこの時のガリ版ずり文書には、あまり隊の粗製濫造をするなどいましており、組織拡大にブレーキをかけたのはこの時が初めて、そして最後と思われるので大変

おもしろく、少々引用しておく。

「大分軍政部の示達で仮登録も連盟に進達することを暫く見合わせます。それは目下県には仮登録隊が16隊で、日本中で第2位ぐらいたが、その隊の実際は甚だ貧弱だと見ていて、このまま隊が増加したのでは真の目的は達せられないので、これは軍政部係官とお前の責任になる、今が一番大切な秋であるから、隊数を現在のままに留め隊長及び隊の充実を図るのを急務とし、次後に隊の増加を図ることにせよ、余り隊数が多くなれば自分もだがお前も多忙で手が廻るまいというのであります。」

この文の次には、近く日連が財団法人として正式に出発するので、その時に本登録が行われること、その準備を充分よくすること、本登録を日本連盟に進達する前に、軍政部の係官と古井がその隊に出向いて実情実績を調査し、よければ進達する。と、ちょっとこわいようなことが書かれている。

### 3 大分県連盟の結成

#### イ、結成年月日に関する疑問

「弥栄の歩み」(県連史)の中心・目玉ともいべき連盟結成の年月日については、前記大分連盟公報の県連沿革史には欠落している。昭和23年のところには出ていないし、24年のところをそのまま記してみると、

昭和24年

5月8日、クラブ総会、大分市碩田中学校、BS指導者クラブ改組、県連結成準備とする。

8月、第2回合同野営訓練大会、別府市猪之瀬戸、150名

8月18日～21日、第3回指導者講習会湯布院道場、主任講師、福岡、別所弥吉先生

12月18日、県連総会、大分市碩田中学校、大分、別府、日田、大野郡各1個隊登録

12月23日、副会長岩田友介先生逝去



ボーイスカウト大分県連盟の結成式を報ずる大分合同新聞。

となって、あとは昭和25年となっている。常識として5月8日の県連結成準備会のあと結成総会があるべきだと思うが、それが無いことは、結成式としては挙げず、日連への届け出日(あるいは承認日)をもって結成式の日としたのではないか、等の疑問がわいて来る。

ところで、ここに他に2つの資料がある。それは、日連が出した「日本ボーイスカウト運動史」の巻末に、各県連の運動小史がのせてあるが、大分県の欄に、

1949年(昭和24年)6月、大分連盟結成式挙行、同月天皇陛下行幸し、大分県営球場で大分第1隊、大野第1隊のスカウト奉仕

と明記してある。村井昌事務局長の時の原稿に基づく印刷であるので、氏に聞いてみたが日時、場所等は不明とのこと。

もう一つの資料は、大分県教育委員会の社会教育課が、社会教育法施行30周年記念として出した、「大分県社会教育～30年の歩み」であるが、これには、

昭和23年5月28日、日本ボーイスカウト大分連盟を結成する。

〃 6月22日、ガールスカウト日本連盟大分県支部を結成し、大分軍政部によってガールスカウト講習会を大分市で開催する。

となっている。果たしてどれが事実か。

この日時の決定は、以後くり返される、大分県連盟結成〇〇周年記念式典、あるいは〇〇大会といった行事を行う場合、基礎となる大事な問題である。編集委員会事務局としては、しばしば問題を関係者に投げかけ、当時の関係者でまだ元気な方々、渡辺善證、麻生重則（船橋市在住）木元道治（別府市）滝口弘士（武蔵町）らに問い合わせたが、明答は得られなかった。

#### ロ、6月12日、盛大な結成式を挙ぐ

そこで、当時の大分合同新聞が、県立大分図書館に保存されていることを確かめ、「大分県の社会教育～30年の歩み」に出ている23年5月から、24年6月までの1年間の新聞を繰ってみた。そして24年6月13日付新聞に、遂に発見することができた。

“三つの誓い” 高唱

ボーイスカウト県連生る。

日本ボーイスカウト県連盟結成式は12日（日）午後1時大分市議事堂であげた。赤や茶色のネッカチーフやバッジをつけた元気一ぱいの県下12隊代表50名や、関係者及び特別招待による別府G Iのソロモン氏らが和やかなふんいきの中に着席、まずボーイスカウトの歌を合唱、続いて県ボーイスカウト指導者クラブ麻生会長から結成に到るまでの経過報告、議案を審議、ソロモン氏の激励などがあって理事に新田元周（日田）岩田友介（別府）麻生重則（大野）吉田伴一（臼杵）古井六彦（森）の九氏を決定、理事代表古井氏のあいさつと、上田大分市長代理春山市教育長の祝辞があり、最後に三つの誓いを全員がとなえて閉式、結成の喜びを顔一ぱいだよわせたボーイスカウトたちは、同会場から大分駅まで市中行進を行って解散した。（写真はその結成式を終えた隊員に喜びをのべるソロモン氏）

これが記事の全文である。人の記憶は日一日と磨耗して行く。これが今般県連史を編纂したゆえんでもある。

ちなみにガールスカウトは24年7月24日、碩田中学校で結成式を挙げている。

さて県連盟の初代連盟長はだれであったか、ということも問題になる所であるが、実際には当初連盟長というものはおらず、というのは当時日連から示された地方県連盟の規約案によってつくられた、太分連盟規約によれば、

第12条、理事長は本連盟を代表し、総会及び理事会を招集しその議長となる。とあり、当時は理事長が代表者であり、麻生重則が理事長であった。その後日連の規約の整備に伴い、連盟長をおく規約となり、昭和27年5月1日、公選2期目の細田徳寿知事が連盟長に推薦されたもので、初代連盟長は細田徳寿である。

この結成式が行われたころ、前記古井六彦や軍政部係官のきびしい検査に合格し、日本連盟に登録を承認された隊は次のとおりである。

(日本連盟登録台帳写し)

(郡市名)	(隊号)	(承認年月日)	(隊本部所在地)	(指導者数)	(隊員数)
大分市	1	24.12	大分市東八幡2丁目光堅寺	2	19
別府市	1	24.5.8	別府市高砂町	3	30
大野郡	1	24.1.24	大野郡上井田村	3	31
日田市	1	24.5.16	日田市川原町	1	13
佐伯市	1	25.3.3	佐伯市新小路	1	34
大分郡	1	25.4.18	大分郡鶴崎町	3	39
東国東郡	1	25.7.20	東国東郡国東町	3	16
大分郡	2	25.7.18	大分郡由布院町	4	17
別府市	2	25.7.6	別府市南末広町	3	25
計	9隊			23	224

### ◎カブスカウトのやくそく

ぼくは

まじめに しっかり やります。

カブ隊の さだめを守ります。

### ◎カブ隊のさだめ

- 1, カブスカウトは すなおであります。
- 2, カブスカウトは 自分のことを自分でします。
- 3, カブスカウトは たがいに助けあいます。
- 4, カブスカウトは おさないものをいたわります。
- 5, カブスカウトは すすんでよいことをします。

### ◎カブスカウトのモットー

いつも元気。

(昭和22年8月決定)